

北海道釧路北陽高校 約200人に 検診による早期発見・治療の大切さを呼びかける がん教育推進事業に協力

2026年1月29日（木）

学校で段階的に必修となってきた「がん教育」。中でも医療従事者やがん経験者を外部講師として招き、授業を行うことが推奨されています。

今回は、北海道教育委員会から依頼を受け、がん教育等外部講師連携支援事業の一環として、がん経験者である社長室の阿久津友紀部長が釧路北陽高校2年生およそ200人を対象とした保健の授業で講演を行いました。

この講演は「がん」について、子どもたちが関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるようにすることを目的としています。「がん教育は病を学ぶための教育ではなく、生きる希望を見出すための教育であること」や、「多くの人のがん検診を受診するためには、どのような社会的仕組みが必要か」といった視点から、自身の罹患体験を踏まえた授業です。

生徒からは「生活習慣などを含めて自分の体を大切にしなければならなかった」、鈴木亮介校長は「実体験に基づく講演内容は、生徒一人ひとりに強い印象を与え、普段の授業では学ぶことのできない貴重な時間となりました。」と感想が寄せられました。

onちゃんと学ぼう！「がんってなんだ？」など3本は北海道教育庁学校教育局体育・保健課の公式YouTubeで見ることができます。

https://youtu.be/SevSS3BBuAM?si=8odj_79WNXCrPACu

釧路北陽高校ホームページ

https://www.kushiro.ed.jp/hokuyo-h/htdocs/index.php?page_id=0

